

紙芝居の打ち合わせをする  
メンバーら(徳島市東沖洲  
の県民活動プラザで)



## とくしま動物園 紙芝居ボランティア

# 夫婦 コンドル 題材に独自作

徳島市のとくしま動物園などで活動する紙芝居ボランティア「おしゃべりくまさん」(田中浩子会長)が、同園のシンボルのコンドル夫婦を主人公にした紙芝居「コンドルさんととくしま動物園の仲間たち」を製作した。16日に阿波市の保育所を訪れるのを手始めに、子ども向けの催しが少ない山間部などを回り、紙芝居を披露する。メンバーは「たくさんの子どもたちに元気を届けたい」と意気込んでいる。

同園には、小動物と触れ合うコーナーがあるが、混雑時は順番待ちで子どもたちが退屈してしまつたため、楽しく過ごしてもらおうと、2005年に動物園ボランティアの有志で結成。今では14人の会員がいる。当初から、動物園にちなんだオリジナル作品を作りたいと考えていたが、昨年メンバーにデザイナーが加わった上、今年に入り、県内の金融機関から社会貢献活動の助成金が受けられることになり、念願がかなった。

た。メンバーが作った物語の中から、面白かったコンドルの夫婦の作品を選び、メンバーが絵を描いた。推定60歳といわれる園内で最も長寿のコンドルの夫婦が、ソウやリスザルなどの動物といつも仲良く話をしていたが、ある日、だれも話しに來ないので不思議に思った時、動物たちのやさしさに触れる——というストーリー。田中会長は「何度言葉を入れ替えるなど苦労した。お年寄りへの思いやりを感じてほしい」と語る。

3月末には大阪から紙芝居の専門家を招き、セリフの練習や間の取り方を学び、4月の同園開園10周年の記念行事で初披露した。「中山間地域でも、子どもたちが楽しめる場を提供したい」と思い、県内の保育所などを巡演する計画を立てた。「『誰かが来る』というワクワク感を子どもたちに感じてほしい」と山下健一事務局長は話す。巡演の初回は16日、阿波市市場町上喜来の大俣保育所。当日は紙芝居をはじめ、歌や手遊び、手品なども行う。その後は石井町や海陽町、那賀町でも開催する予定で、受け入れ先も募っている。

## 「山間部など巡演へ」

きょう初回  
阿波で披露

山下事務局長は「来るまでの期待感、実際に見る楽しさ、終わった後に感想を話し合うという楽しい思いがずっと続くのは、紙芝居ならではの。一つの思い出を一生の思い出にしてほしい」と話している。問い合わせは田中さん(090・2893・1801)へ。